

未来を創る力：早稲田大学から社会へ

千代田化工建設株式会社 武田 建人
(2013年修了 藤江研究室)

早稲田大学創造理工学研究科を 2013 年に修了した武田と申します。現在、千代田化工建設株式会社の配管設計部で国内外のプラント設計・建設に携わっています。今回は早稲田機友会メールマガジンへの寄稿機会をいただきましたので、自分の業務内容ややりがい、大学での経験がどう活かされているか、そして社会に出てから感じたことについてお話しします。これから社会に出る早稲田の学生にとって、少しでも参考になれば幸いです。

[業務紹介とやりがい]

私が勤務する千代田化工建設は、LNG や石油、化学、医薬品などのプラントの設計・調達・建設(EPC)を行う総合エンジニアリング企業で、世界 60 カ国以上で事業を展開しています。私は配管設計部に所属し、プラント(工場)内の機器同士をつなぐ”配管”を設計しています。”配管”は人間の体に例えるならば臓器(機器)をつなぐ血管に当たるもので、配管設計のやりがいの一つは、3D 統合設計の中心的役割を担い、プロジェクト全体の成否に深く関わることです。3D 空間上に各部で設計したものを描画していきますが、配管設計はその中でも物量が多く、3D モデルの設定管理も担っていることから、3D 統合設計開始から完了までをすべて経験することができ、さらに他部署との調整や連携が頻繁に行われるため、自部署以外の設計の知識も身につきます。また、設計後には現場工事に移行し、自分が設計したものが具現化していく過程を見ることができる点も非常に魅力的です。自分の経験では、中国に長期赴任した際に、厳しいスケジュールを乗り越えて期間内に工事を完成させ、無事自分が設計したモジュール(建物)を輸送船に載せられたときの達成感は今でも忘れられません。(Fig. 1 参照)規模が大きいと関わる人が多く管理が大変ですが、完成したときのスケールの大きさと達成感は圧倒的です。(Fig. 2 参照)

[大学の経験で役立っていること]

早稲田大学での経験は、私のキャリアに大いに役立っています。研究活動を通して養った「よく考える力」や「発表力」は、社会に出た後も重要なスキルです。藤江研究室での研究を通じて、課題解決のための思考力や、短時間で要点を伝える能力を磨くことができました。自分は優秀な学生ではありませんでしたが、それでも早稲田大学での経験を活かすことで千代田化工建設での評価につながっています。

[社会に出て感じたこと]

社会に出て感じたことは、学生のうちに思い切り楽しむ時間を持ち、さらに体と心の持久力を養ってほしいということです。社会に出ると、長期休暇は限られ、自由な時間が減少します。だからこそ学生のうちに、旅行や趣味に思い切り没頭する時間を作り、リフレッシュする手法を確立しておくのが良いと思います。次に、楽しむための体と心の持久力をつけておくことについてですが、社会に出ると仕事や家庭に時間が取られ、自由時間が限られ、その自由時間さえも疲れていては楽しむことが難しくなります。後から持久力を付けることも可能ですが、そのためには少ない自由時間を犠牲にする必要がでてしまうので、学生のうちに体と心の持久力を付けておくのが良いと感じています。

最後に、早稲田大学の機械系を卒業するさんは、十分に社会で通用する能力を身に着けています。自信を持って大学生活を謳歌し、社会に出た後はその能力を存分に発揮してください。これからの方々の活躍を心から応援しています。

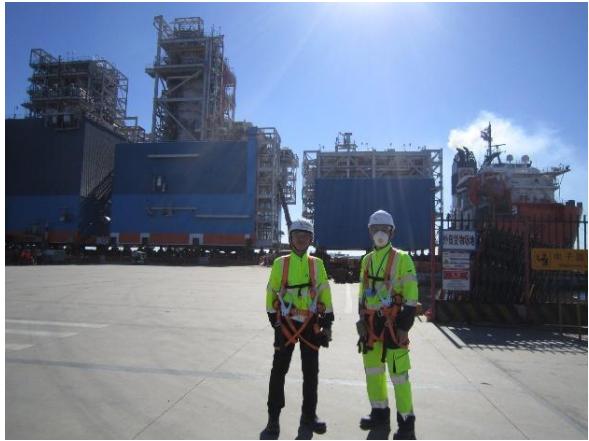


Fig.1 自分が設計に携わったモジュールが輸送船に載ったところ(左が私)



Fig.2 様々なモジュールが現場で据え付けられた写真